

## 環境学習情報センターで学ぶ循環型社会！



ごみを減らす3Rの中で、もっとも効果があるのが「リデュース」です。ごみを作らない「リデュース」を、体験しながら考えるのが「買い物ゲーム」です。

これは沖縄リサイクル運動市民の会と株式会社ダイナックス都市環境研究所が考えた、体験型の環境学習プログラムです。

当センターでは、出版されている書籍を参考にプログラムを作成し、出前講座などで体験できます。



ゲームは仮定のスーパーマーケットにカレーの材料を買いに行くところから始まります。お肉やカレーのルー、飲み物などを班で相談して買います。

トレイに入ったお肉とばら売りのお肉どっちを買おうかな？

買い物から帰って、机の上に買ったものを並べてみると...トレイ、ラップ、ペットボトル、レジ袋。実にたくさんの「ごみ」も買ってきてしまったことに気がつきます。



買い物ってごみがたくさんでるんだね...どうしたらいいかな？

そこで、どうしたらごみを減らすことができるのか、子どもたちは考えます。そして、2回目の買い物では見事ごみを減らすことに成功します。



「買い物ゲーム」は自分たちで解決方法を考え、それを達成させることで、子どもたちの環境への取組みにつながる環境学習プログラムです。

## 究極の循環型社会、江戸時代の暮らしぶりを環境学習センターのミラージュビジョンでのぞいて見ませんか？



～あらすじ～

昔、伊勢に一人の商売人さんがおりました。ある日、商売人さんはだんなさまに「このごろムダが多いよ」としかられて江戸に勉強の旅に出ます。江戸は200万人の人が住む大都市ですが、みんなの暮らしにはムダがなくリサイクルの達人ばかりです。

江戸の町で商売人さんは次々と達人に出会います。最初に出会ったのは鑄掛け（いかけ）屋さんでした。お鍋にあながあいたのを修理していました。次に出会ったのは、紙くず集めのおじさんでした。この時代の紙くずは貴重品で、とかしてもう一度、紙にするんだそうです。三人目は傘の修理屋さんでした。傘は破れたり壊れたりして修理をすれば使えるようになります。四人目は、子どもたちが集めた古くぎを集めてオモチャと交換してくれるおじさんでした。みんな、身の回りの物を大切にしている人

たちばかりで、修理や再利用のお手本になる人ばかりでした。

そして、最後に出会った大根を持った農家のおじさんは変わった物を大根と交換していました。さて、このおじさんは大根を何と交換することでリサイクルの達人だったのでしょうか？